



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

一步を踏み出す勇氣

～望ましい集団活動の実現に向けて～

校長 窪田 剛久

新1年生が入学して、1ヶ月が過ぎようとしています。新しい環境に少しずつ慣れ、小学生らしい姿勢や振る舞いが身に付いてきました。こうした経験が、子ども達に一步を踏み出す勇氣を育てているのだと、改めて感じているところです。

さて、一步を踏み出す勇氣と言えば、この時期に話題になるのが、新しい人間関係の構築です。入学、そして進級した子ども達は、今までのメンバーとは違う新しいコミュニティーに所属します。もちろんそのコミュニティーを統括する担任の先生も代わります。子ども達にとっては、正に人生の大事件です。そこで先日の朝会では「特別活動」についてのお話をしました。

学校には「特別活動」という時間があります。学習指導要領では「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」のが目標とされています。少し文章が難しいですが、「心身の」以降に書かれている姿に子どもを近付けるために、学校では「望ましい集団活動」をコーディネートしますよ、ということです。では「望ましい集団活動」とは何でしょうか。それこそ私達が日々研究を重ねている部分であり、私が朝会で子ども達に伝えた内容に重なります。



学校には、行事などに向けた様々な活動があります。その準備段階として「特別活動」の時間を使い、子ども達は企画を練り上げたり、実践の分担を考えたりします。私は、そうした「特別活動」では「自分の考えを伝えよう。」と子ども達に呼びかけました。伝えようとすることで、自分の考えが整理され、話し方のスキルが向上したという経験をもっ

ていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。また自分の考えを分かりやすく伝えることで、人に理解してもらい、信頼関係を築けたという方もいらっしゃると思います。ただしそれだけではなく「友達の考えを聞こう。」とも呼びかけました。伝えるだけの一方通行ではコミュニケーションにならないからです。「聞いてもらい、聞かせてもらう。」そうやって築いた土台が「望ましい集団活動」を実現し、結果として多くの友達をつくることにつながるのです。このような経験を、実は小学校の頃から積み重ねようと、私たちは日々、研究と努力を重ねています。

新型コロナウイルスの感染拡大が気になるころですが、今年度はまだスタートを切ったばかりです。今正に、考えを伝え合い、新しい人間関係を構築するチャンスだということができるでしょう。感染予防に留意しつつ、新しい一步を踏み出す勇氣がもてるように、私達はこれからは、子ども達の背中を押し続けていきます。